

令和 4 事業年度財務諸表

(法 人 単 位)

年金積立金管理運用独立行政法人

貸 借 対 照 表 (法 人 単 位)
(令 和 5 年 3 月 3 1 日)

(単 位 : 円)

資 産 の 部

I 流 動 資 産

現金及び預金	19,619,591	
金銭等の信託	200,132,825,260,526	
前払費用	346,100	
未収金	112,668,691	
流動資産合計		200,132,957,894,908

II 固 定 資 産

1 有 形 固 定 資 産

建物	504,191,173	
建物減価償却累計額	△ 207,362,207	296,828,966
工具器具備品	768,129,275	
工具器具備品減価償却累計額	△ 500,549,523	267,579,752
有形固定資産合計		564,408,718

2 無 形 固 定 資 産

ソフトウェア	682,299,222	
電話加入権	28,000	
無形固定資産合計		682,327,222

固定資産合計	1,246,735,940	
資産合計		200,134,204,630,848

負債の部

I 流動負債

未払金		24,882,338,332	
未払費用		26,997,297	
預り金		19,590,429	
引当金			
賞与引当金	303,189,713	303,189,713	
流動負債合計			25,232,115,771

II 固定負債

運用寄託金		114,716,624,296,010	
引当金			
退職給付引当金	973,789,000	973,789,000	
固定負債合計			114,717,598,085,010
負債合計			114,742,830,200,781

純資産の部

I 資本金

政府出資金		100,000,000	
資本金合計			100,000,000

II 利益剰余金

利益剰余金合計		85,391,274,430,067	
純資産合計			85,391,374,430,067
負債純資産合計			200,134,204,630,848

行政コスト計算書(法人単位)
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位:円)

I	損益計算書上の費用		
	資産運用業務費	36,979,922,916	
	一般管理費	993,240,950	
	臨時損失	132,000	
	損益計算書上の費用合計		37,973,295,866
II	その他行政コスト(注)	—	—
III	行政コスト		37,973,295,866

(注)これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目である。

行政コスト計算書関係

1. 独立行政法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

行政コスト	37,973,295,866
自己収入等	△ 2,953,723,372,874
機会費用	4,445,017
独立行政法人の業務運営に関して 国民の負担に帰せられるコスト	△ 2,915,745,631,991

2. 機会費用の計上方法

(1) 政府出資又は地方公共団体出資等から生ずる機会費用の計算に使用した利率
10年利付き国債の令和5年3月末利回りを参考に0.320%で計算しています。

(2) 国又は地方公共団体との人事交流による出向職員から生ずる機会費用の計算方法
当該職員が国又は地方公共団体に復帰後退職する際に支払われる退職金のうち、
独立行政法人での勤務期間に対応する部分について、給与規則に定める退職給付
支給基準等を参考に計算しています。

損 益 計 算 書（法人単位）
（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：円）

経常収益			
資産運用損益		2,953,590,848,162	
雑益		132,524,712	
経常収益合計			2,953,723,372,874
経常費用			
資産運用業務費			
運用諸費	32,747,959,479		
役員報酬	120,978,085		
給与手当	1,214,351,416		
法定福利費	189,338,817		
賞与引当金繰入額	278,525,918		
退職給付費用	101,668,642		
賃借料	1,809,328,180		
減価償却費	517,772,379	36,979,922,916	
一般管理費			
役員報酬	34,122,022		
給与手当	247,334,102		
法定福利費	39,591,915		
賞与引当金繰入額	24,663,795		
退職給付費用	21,148,558		
賃借料	93,929,725		
減価償却費	53,433,072		
その他の一般管理費	479,017,761	993,240,950	
経常費用合計			37,973,163,866
経常利益			2,915,750,209,008
臨時損失			
固定資産除却損		132,000	132,000
当期純利益			2,915,750,077,008
当期総利益			2,915,750,077,008

純資産変動計算書（法人単位）
（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：円）

	Ⅰ 資本金		Ⅱ 利益剰余金	純資産合計
	政府出資金	資本金合計		
当期首残高	100,000,000	100,000,000	82,855,524,353,059	82,855,624,353,059
当期変動額				
利益剰余金の当期変動額（純額）		—	2,535,750,077,008	2,535,750,077,008
当期変動額合計	—	—	2,535,750,077,008	2,535,750,077,008
当期末残高	100,000,000	100,000,000	85,391,274,430,067	85,391,374,430,067

キャッシュ・フロー計算書（法人単位）
（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：円）

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
資金運用に係る投資支出	△ 1,025,925,291,041
人件費支出	△ 2,134,763,150
その他業務支出	△ 39,873,293,642
運用寄託金受入	1,007,665,961,730
投資回収金収入	380,000,000,000
運用事業収入	59,295,568,009
その他業務収入	<u>1,001,583,612</u>
小計	380,029,765,518
国庫納付金の支払額	<u>△ 380,000,000,000</u>
業務活動によるキャッシュ・フロー	29,765,518
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 5,805,822
無形固定資産の取得による支出	<u>△ 21,524,875</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 27,330,697
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	—
IV 資金に係る換算差額	<u>—</u>
V 資金増加額	2,434,821
VI 資金期首残高	<u>17,184,770</u>
VII 資金期末残高	<u><u>19,619,591</u></u>

注記

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（令和３年９月２１日改訂）並びに「『独立行政法人会計基準』及び『独立行政法人会計基準注解』に関するＱ＆Ａ」（令和４年３月最終改訂）（以下「独立行政法人会計基準等」という。）のうち、時価の算定に係る改訂内容を適用して、財務諸表等を作成しております。なお、独立行政法人会計基準等のうち、収益認識に係る改訂内容は令和５事業年度から適用します。

１．重要な会計方針

（１） 「金銭等の信託」の評価基準及び評価方法

運用目的有価証券

売買目的有価証券

時価法（売却原価の算定には移動平均法）によっています。

（２） 外貨建資産及び負債の換算基準

外貨建資産及び負債は、決算日の為替相場により円換算しています。

（３） 減価償却の会計処理方法

① 有形固定資産

定額法を採用しています。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりです。

建物 １５～１８年

工具器具備品 ４～２０年

② 無形固定資産

定額法を採用しています。

なお、法人内利用のソフトウェアの耐用年数については、法人内における利用可能期間（５年）に基づいています。

（４） 引当金の計上基準

① 賞与引当金

役員及び職員（含む臨時職員）に支給する賞与の支出に充てるため、翌期の支払見込額のうち当期に発生した額を計上しています。

② 退職給付引当金

役員及び職員の退職給付に備えるため、内規に基づく当該者が自己都合退職した場合の期末要支給額を計上しています。

（５） 消費税等の会計処理

税込方式によっています。

２．重要な債務負担行為

該当事項はありません。

３．重要な後発事象

該当事項はありません。

４．固有の表示科目の内容

（１） 金銭等の信託

金銭等の信託は、売買目的有価証券に分類し、経理処理しています。

(2) 運用寄託金

厚生年金保険法第79条の3第1項及び国民年金法第76条第1項の規定に基づき厚生労働大臣から寄託された積立金を計上しています。

5. 貸借対照表関係

固定資産の減損に関する事項

該当事項はありません。

6. キャッシュ・フロー計算書関係

資金の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

現金及び預金勘定	19,619,591 円
資金期末残高	19,619,591 円

7. 金融商品関係

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当法人は、厚生労働大臣から寄託された年金積立金の管理及び運用を行っています。

この年金積立金の運用は、厚生年金保険法及び国民年金法等に基づき、長期的な観点から安全かつ効率的に行うこととしています。

② 金融商品の内容及びそのリスクと管理体制

当法人が保有する金融商品の内容及びリスクに対する管理体制は、関係法令、業務方法書及び年金積立金の管理及び運用に関する具体的な方針等に基づいています。

当法人が運用目的で保有する資産は、長期的な観点から資産構成割合を定めることにより、国内外の債券、株式等で構成しています。これらの資産は、当法人の特定運用信託契約に基づいて運用しており、貸借対照表において「金銭等の信託」として表示し、売買目的有価証券に分類しています。

また、当該運用資産は、金利や為替の変動による市場リスクや信用リスク等を包含していますが、関係法令等に基づき適切なリスク管理を実施し、これらのリスク管理における実施状況等については、法人の重要な方針を決定するとともに執行部の業務執行を監督する役割を担う経営委員会に報告しています。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額を用いることとしています。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

令和5年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。なお、現金は注記を省略しており、預金、未収金及び未払金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しています。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
金銭等の信託			
売買目的有価証券	200,132,825,260,526	200,132,825,260,526	—
資 産 計	200,132,825,260,526	200,132,825,260,526	—
運用寄託金	114,716,624,296,010	114,716,624,296,010	—
負 債 計	114,716,624,296,010	114,716,624,296,010	—

(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の三つのレベルに分類しています。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しています。

① 時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭等の信託				
売買目的有価証券	—	197,298,307,883,202	2,834,517,377,324	200,132,825,260,526
資産計	—	197,298,307,883,202	2,834,517,377,324	200,132,825,260,526

② 時価をもって貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
運用寄託金	—	114,716,624,296,010	—	114,716,624,296,010
負債計	—	114,716,624,296,010	—	114,716,624,296,010

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金銭等の信託

金銭等の信託の信託財産の構成物である有価証券については、資産管理機関から提示された価格によっています。

信託契約の単位ごとに主要な構成物のレベルに基づき、レベル2又はレベル3の時価に分類しています。なお、当法人の特定運用信託契約に基づき信託契約単位ごとに資産管理機関より提示された価格は、レベル2又はレベル3の時価に分類しています。

運用寄託金

運用寄託金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価としており、レベル2の時価に分類しています。

(注2) 時価をもって貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債のうちレベル3の時価に関する情報

① 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

当法人自身が観察できないインプットを推計していないため、記載していません。

② 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

(単位：円)

	期首残高	損益に計上 (※1)	配分・回収額 の純額	レベル3の時価 への振替	レベル3の時価 からの振替	期末残高	当期の損益に計上 した額のうち貸借 対照表日において 保有する金融資産 及び負債の評価損 益 (※1)
金銭等の信託							
売買目的有価証券	2,158,554,283,705	195,032,757,199	480,930,336,420	—	—	2,834,517,377,324	107,891,886,705

(※1) 損益計算書の「資産運用損益」に含まれています。

③ 時価の評価プロセスの説明

当法人では時価の算定に関する方針及び手続きを定めており、レベル3の時価は、資産管理機関から提示された価格によることとしています。また、資産管理機関から提示された価格については、その変動要因を毎年度分析するとともに、投資先の投資内容についてモニタリングを実施し、把握しています。

④ 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

当法人自身が観察できないインプットを推計していないため、記載していません。

8. 退職給付引当金

(1) 採用している退職給付制度の概要

当法人は、役職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度を採用しています。当該制度では、給与と勤務期間等に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しています。

(2) 確定給付制度

① 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	945,504,500 円
退職給付費用	122,817,200 円
退職給付の支払額	△94,532,700 円
期末における退職給付引当金	973,789,000 円

② 退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用	122,817,200 円
----------------	---------------

附属明細書

1. 各勘定の経理の対象と勘定相互間の関係を明らかにする書類

(1) 各勘定の経理の対象

① 厚生年金勘定

年金積立金管理運用独立行政法人法第24条第1項第1号の規定に基づく、厚生年金積立金の管理に係る経理

② 国民年金勘定

年金積立金管理運用独立行政法人法第24条第1項第2号の規定に基づく、国民年金積立金の管理に係る経理

③ 総合勘定

年金積立金管理運用独立行政法人法第24条第1項第3号の規定に基づく、厚生年金勘定及び国民年金勘定から受け入れた資金の管理並びに同法第18条に規定する業務に必要な事務に係る経理

(2) 勘定相互間の関係

年金積立金管理運用独立行政法人法第25条第1項において、独立行政法人通則法第44条第1項の規定にかかわらず、総合勘定において、毎事業年度、損益計算において利益を生じたときは、当該事業年度における厚生年金勘定及び国民年金勘定から受け入れた資金の額を基準として政令で定めるところにより按分した額を、それぞれこれらの勘定に帰属させるものとされています。

また、年金積立金管理運用独立行政法人法第25条第2項において、独立行政法人通則法第44条第2項の規定にかかわらず、総合勘定において、毎事業年度、損益計算において損失を生じたときは、当該事業年度における厚生年金勘定及び国民年金勘定から受け入れた資金の額を基準として政令で定めるところにより按分した額を、それぞれこれらの勘定から受け入れた資金を減額して整理するものとされています。

2. 法人単位財務諸表と各勘定別財務諸表の関係を明らかにする書類

貸 借 対 照 表
(令和5年3月31日)

(単位：円)

科 目	厚 生 年 金 勘 定	国 民 年 金 勘 定	総 合 勘 定	調 整	法 人 単 位
資産の部					
I 流動資産					
現金及び預金	—	—	19,619,591		19,619,591
金銭等の信託	—	—	200,132,825,260,526		200,132,825,260,526
前払費用	—	—	346,100		346,100
未収金	2,766,408,523,399	149,341,553,609	112,668,691	△ 2,915,750,077,008	112,668,691
流動資産合計	2,766,408,523,399	149,341,553,609	200,132,957,894,908	△ 2,915,750,077,008	200,132,957,894,908
II 固定資産					
1 有形固定資産					
建物	—	—	504,191,173		504,191,173
建物減価償却累計額	—	—	△ 207,362,207		△ 207,362,207
工具器具備品	—	—	768,129,275		768,129,275
工具器具備品減価償却累計額	—	—	△ 500,549,523		△ 500,549,523
有形固定資産合計	—	—	564,408,718		564,408,718
2 無形固定資産					
ソフトウェア	—	—	682,299,222		682,299,222
電話加入権	—	—	28,000		28,000
無形固定資産合計	—	—	682,327,222		682,327,222
3 投資その他の資産					
総合勘定繰入金	187,261,481,590,603	9,930,667,058,466	—	△ 197,192,148,649,069	—
投資その他の資産合計	187,261,481,590,603	9,930,667,058,466	—	△ 197,192,148,649,069	—
固定資産合計	187,261,481,590,603	9,930,667,058,466	1,246,735,940	△ 197,192,148,649,069	1,246,735,940
資産合計	190,027,890,114,002	10,080,008,612,075	200,134,204,630,848	△ 200,107,898,726,077	200,134,204,630,848

(単位：円)

科 目	厚 生 年 金 勘 定	国 民 年 金 勘 定	総 合 勘 定	調 整	法 人 単 位
負債の部					
I 流動負債					
未払金	—	—	2,940,632,415,340	△ 2,915,750,077,008	24,882,338,332
未払費用	—	—	26,997,297		26,997,297
預り金	—	—	19,590,429		19,590,429
引当金					
賞与引当金	—	—	303,189,713		303,189,713
流動負債合計	—	—	2,940,982,192,779	△ 2,915,750,077,008	25,232,115,771
II 固定負債					
運用寄託金	107,213,994,325,555	7,502,629,970,455	—		114,716,624,296,010
他勘定受入金					
厚生年金勘定受入金	—	—	187,261,481,590,603	△ 187,261,481,590,603	—
国民年金勘定受入金	—	—	9,930,667,058,466	△ 9,930,667,058,466	—
引当金					
退職給付引当金	—	—	973,789,000		973,789,000
固定負債合計	107,213,994,325,555	7,502,629,970,455	197,193,122,438,069	△ 197,192,148,649,069	114,717,598,085,010
負債合計	107,213,994,325,555	7,502,629,970,455	200,134,104,630,848	△ 200,107,898,726,077	114,742,830,200,781
純資産の部					
I 資本金					
政府出資金	—	—	100,000,000		100,000,000
資本金合計	—	—	100,000,000		100,000,000
II 利益剰余金					
積立金	80,047,487,265,048	2,428,037,088,011	—		82,475,524,353,059
当期未処分利益	2,766,408,523,399	149,341,553,609	—		2,915,750,077,008
(うち当期総利益)	(2,766,408,523,399)	(149,341,553,609)	—		(2,915,750,077,008)
利益剰余金合計	82,813,895,788,447	2,577,378,641,620	—		85,391,274,430,067
純資産合計	82,813,895,788,447	2,577,378,641,620	100,000,000		85,391,374,430,067
負債純資産合計	190,027,890,114,002	10,080,008,612,075	200,134,204,630,848	△ 200,107,898,726,077	200,134,204,630,848

行政コスト計算書
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：円)

科 目	厚 生 年 金 勘 定	国 民 年 金 勘 定	総 合 勘 定	調 整	法 人 単 位
I 損益計算書上の費用					
資産運用業務費	—	—	36,979,922,916		36,979,922,916
一般管理費	—	—	993,240,950		993,240,950
臨時損失	—	—	132,000		132,000
損益計算書上の費用合計	—	—	37,973,295,866		37,973,295,866
II その他行政コスト	—	—	—		—
III 行政コスト	—	—	37,973,295,866		37,973,295,866

損 益 計 算 書
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：円)

科 目	厚 生 年 金 勘 定	国 民 年 金 勘 定	総 合 勘 定	調 整	法 人 単 位
経常収益					
資産運用損益	—	—	2,953,590,848,162		2,953,590,848,162
雑益	—	—	132,524,712		132,524,712
経常収益合計	—	—	2,953,723,372,874		2,953,723,372,874
経常費用					
資産運用業務費	—	—	36,979,922,916		36,979,922,916
運用諸費	—	—	32,747,959,479		32,747,959,479
役員報酬	—	—	120,978,085		120,978,085
給与手当	—	—	1,214,351,416		1,214,351,416
法定福利費	—	—	189,338,817		189,338,817
賞与引当金繰入額	—	—	278,525,918		278,525,918
退職給付費用	—	—	101,668,642		101,668,642
賃借料	—	—	1,809,328,180		1,809,328,180
減価償却費	—	—	517,772,379		517,772,379
一般管理費	—	—	993,240,950		993,240,950
役員報酬	—	—	34,122,022		34,122,022
給与手当	—	—	247,334,102		247,334,102
法定福利費	—	—	39,591,915		39,591,915
賞与引当金繰入額	—	—	24,663,795		24,663,795
退職給付費用	—	—	21,148,558		21,148,558
賃借料	—	—	93,929,725		93,929,725
減価償却費	—	—	53,433,072		53,433,072
その他の一般管理費	—	—	479,017,761		479,017,761
経常費用合計	—	—	37,973,163,866		37,973,163,866
経常利益			2,915,750,209,008		2,915,750,209,008
総合勘定分配金収入	2,766,408,523,399	149,341,553,609	—	△ 2,915,750,077,008	—
臨時損失					
固定資産除却損	—	—	132,000		132,000
繰入前利益	—	—	2,915,750,077,008	△ 2,915,750,077,008	—
他勘定分配金繰入					
厚生年金勘定分配金繰入	—	—	2,766,408,523,399	△ 2,766,408,523,399	—
国民年金勘定分配金繰入	—	—	149,341,553,609	△ 149,341,553,609	—
当期純利益	2,766,408,523,399	149,341,553,609	—		2,915,750,077,008
当期総利益	2,766,408,523,399	149,341,553,609	—		2,915,750,077,008

キャッシュ・フロー計算書
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：円)

区 分	厚生年金勘定	国民年金勘定	総合勘定	調 整	法人単位
I 業務活動によるキャッシュ・フロー					
資金運用に係る投資支出	—	—	△ 1,025,925,291,041		△ 1,025,925,291,041
国民年金勘定への繰入支出	—	—	△ 380,000,000,000	380,000,000,000	—
総合勘定への繰入支出	△ 801,380,330,781	△ 206,285,630,949	—	1,007,665,961,730	—
人件費支出	—	—	△ 2,134,763,150		△ 2,134,763,150
その他業務支出	—	—	△ 39,873,293,642		△ 39,873,293,642
運用寄託金受入	801,380,330,781	206,285,630,949	—		1,007,665,961,730
厚生年金勘定より受入金	—	—	801,380,330,781	△ 801,380,330,781	—
国民年金勘定より受入金	—	—	206,285,630,949	△ 206,285,630,949	—
総合勘定からの受入収入	—	380,000,000,000	—	△ 380,000,000,000	—
投資回収金収入	—	—	380,000,000,000		380,000,000,000
運用事業収入	—	—	59,295,568,009		59,295,568,009
その他業務収入	—	—	1,001,583,612		1,001,583,612
小計	—	380,000,000,000	29,765,518		380,029,765,518
国庫納付金の支払額	—	△ 380,000,000,000	—		△ 380,000,000,000
業務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	29,765,518		29,765,518
II 投資活動によるキャッシュ・フロー					
有形固定資産の取得による支出	—	—	△ 5,805,822		△ 5,805,822
無形固定資産の取得による支出	—	—	△ 21,524,875		△ 21,524,875
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—	△ 27,330,697		△ 27,330,697
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—		—
IV 資金に係る換算差額	—	—	—		—
V 資金増加額	—	—	2,434,821		2,434,821
VI 資金期首残高	—	—	17,184,770		17,184,770
VII 資金期末残高	—	—	19,619,591		19,619,591

利益の処分にに関する書類
(令和5年3月31日)

(単位：円)

科 目		厚 生 年 金 勘 定	国 民 年 金 勘 定	総 合 勘 定	合 計
I	当期末処分利益	2,766,408,523,399	149,341,553,609	—	2,915,750,077,008
	当期総利益	2,766,408,523,399	149,341,553,609	—	2,915,750,077,008
II	利益処分額				
	積立金	2,766,408,523,399	149,341,553,609	—	2,915,750,077,008

結合の結果相殺された各勘定間取引の明細

(単位：円)

区分	借方		貸方	
	科目	金額	科目	金額
貸借対照表	未収金 (厚生年金勘定)	2,766,408,523,399	未払金 (総合勘定)	2,915,750,077,008 (2,766,408,523,399)
	未収金 (国民年金勘定)	149,341,553,609		(149,341,553,609)
	総合勘定繰入金 (厚生年金勘定)	187,261,481,590,603	厚生年金勘定受入金 (総合勘定)	187,261,481,590,603
	総合勘定繰入金 (国民年金勘定)	9,930,667,058,466	国民年金勘定受入金 (総合勘定)	9,930,667,058,466
	合計	200,107,898,726,077	合計	200,107,898,726,077
損益計算書	厚生年金勘定分配金繰入 (総合勘定)	2,766,408,523,399	総合勘定分配金収入 (厚生年金勘定)	2,766,408,523,399
	国民年金勘定分配金繰入 (総合勘定)	149,341,553,609	総合勘定分配金収入 (国民年金勘定)	149,341,553,609
	合計	2,915,750,077,008	合計	2,915,750,077,008
キャッシュ・フロー 業務活動	国民年金勘定への繰入支出 (総合勘定)	380,000,000,000	総合勘定からの受入収入 (国民年金勘定)	380,000,000,000
	総合勘定への繰入支出 (厚生年金勘定)	801,380,330,781	厚生年金勘定より受入金 (総合勘定)	801,380,330,781
	総合勘定への繰入支出 (国民年金勘定)	206,285,630,949	国民年金勘定より受入金 (総合勘定)	206,285,630,949
	合計	1,387,665,961,730	合計	1,387,665,961,730

3. 固定資産の取得及び処分並びに減価償却費の明細並びに減損損失累計額

(単位：円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却	減損損失	差引当期末残高	摘要
						累計額			
有形固定資産 (減価償却費)	建物	503,954,673	236,500	-	504,191,173	207,362,207	33,755,561	-	296,828,966
	工具器具備品	748,962,963	19,166,312	-	768,129,275	500,549,523	137,968,213	-	267,579,752
	計	1,252,917,636	19,402,812	-	1,272,320,448	707,911,730	171,723,774	-	564,408,718
無形固定資産	ソフトウェア	1,997,407,974	17,684,995	-	2,015,092,969	1,332,793,747	399,481,677	-	682,299,222
	電話加入権	160,000	-	132,000	28,000	-	-	-	28,000
	計	1,997,567,974	17,684,995	132,000	2,015,120,969	1,332,793,747	399,481,677	-	682,327,222
合計		3,250,485,610	37,087,807	132,000	3,287,441,417	2,040,705,477	571,205,451	-	1,246,735,940

(注) 1 独立行政法人会計基準「第87 特定の資産に係る費用相当額の会計処理」による減価償却相当額の累計額及び承継資産に係る費用相当額の累計額については、該当ありません。

2 独立行政法人会計基準「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による特定の除去費用等については、該当ありません。

4. 棚卸資産の明細

該当ありません。

5. 有価証券の明細

該当ありません。

6. 長期貸付金の明細

該当ありません。

7. 長期借入金の明細

該当ありません。

8. 引当金の明細

(単位：円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	摘要
			目的使用	その他		
賞与引当金	242,392,347	303,189,713	242,392,347	-	303,189,713	

9. 退職給付引当金の明細

(単位：円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
退職給付引当金	945,504,500	122,817,200	94,532,700	973,789,000	

10. 資産除去債務の明細

該当ありません。

1 1. 法令に基づく引当金等の明細

該当ありません。

1 2. 保証債務の明細

該当ありません。

1 3. 資本剰余金の明細

該当ありません。

1 4. 運営費交付金債務及び運営費交付金収益の明細

該当ありません。

1 5. 国等からの財源措置の明細

該当ありません。

1 6. 役員及び職員の給与の明細

(単位：千円、千円未満切捨て、人)

区分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	(67, 980)	(8)	(-)	(-)
	95, 481	4	6, 129	1
職員	(10, 858)	(2)	(-)	(-)
	1, 681, 066	156	88, 403	14
合計	(78, 838)	(10)	(-)	(-)
	1, 776, 548	160	94, 532	15

- (注) 1 役員に対する給与等の支給基準の概要
役員の給与及び退職手当については、役員給与規程等に基づき、適正額を支給しています。
- 2 職員に対する給与等の支給基準の概要
職員の給与及び退職手当については、職員給与規程等に基づき、各職員の職能に応じて適正額を支給しています。
- 3 職員等の給与の「支給人員」数は、年間平均支給人員数を記載しています。
- 4 () は非常勤の役員及び職員に対するもので外数です。

17. 開示すべきセグメント情報

当法人には厚生年金勘定、国民年金勘定及び総合勘定の3勘定がありますが、総合勘定において他2勘定の資金を運用する単一の事業であるため、開示すべきセグメント情報はありません。

18. 科学研究費補助金の明細

該当ありません。

19. 特定関連会社、関連会社及び関連公益法人等の情報

該当ありません。

20. 上記以外の主な資産、負債、費用及び収益の明細

金銭等の信託

流動資産として計上された金銭等の信託

(単位：円)

区分	期首残高	信託元本		運用損益	期末残高	摘要
		当期増加額	当期減少額			
売買目的有価証券	196,592,604,689,332	57,182,008,772,807	56,595,379,049,775	2,953,590,848,162	200,132,825,260,526	